

神は、人類の始祖アダムとエバに善悪を知る木について訓戒をお与えになっていた（→創世記2：16、17）。彼らは、サタンの堕落に関連したことや、サタンのそそのかしに耳をかたむけることの危険について、十分に知らされていた。神は、禁断の木の実を食べる能力を彼らからとりあげておしまいにならなかった。神は彼らを、神のみ言葉を信じ、神の誠（いましめ）に従って生きるか、それとも誘惑者を信じて神に従わずに滅びるか、そのどちらでも選ぶことのできる**自由意志をもった人間**（→free moral agents＝善悪を判断し、自分の意志で選択し、責任を負う存在）として、お置きになった。彼らは（蛇の「目が開け、神のように善悪を知るものとなる」という言葉に唆され、）**2人とも実を食べた**。そして彼らの得た大いなる知恵というのは、**罪の知識と罪悪感**だった。身体をおおっていた光はまもなく消え、罪の意識と、天来の衣の失われたことから、寒気がおそってきたので、彼らは裸の身体をかくそうとした。

☞ God instructed our first parents in regard to the tree of knowledge, and they were fully informed relative to the fall of Satan, and the danger of listening to his suggestions. He did not deprive them of the power of eating the forbidden fruit. He left them as **free moral agents** to believe His word, obey His commandments, and live, or believe the tempter, disobey, and perish. **They both ate, and the great wisdom they obtained was the knowledge of sin and a sense of guilt.** The covering of light about them soon disappeared, and under a sense of guilt and loss of their divine covering, a shivering seized them, and they tried to cover their exposed forms.

蛇は、アダムとエバに愛のしるしは何もあたえていなかったのに、彼らは蛇の言葉だと思って、その言葉を信ずる方を選んだ。蛇は、彼らの幸福と利益になることは何一つしていなかった。一方、神は、彼らに食べるのによいもの、見るのに美しいものの一切をお与えになっていた。目のとどくかぎり、どことして豊かさとしらに美しさにあふれていないところはなかった。それでもなおエバは、蛇にだまされて、自分たちをもっとかしこく、神のようにさえることのできる何ものかが保留されていると考えた。神を信じ、神に打ち明けることをしないで、彼女は**卑劣にも神の恩恵を疑い、サタンの言葉を信じた**のだ。

アダムは、罪を犯した後、最初は新しい、もっと高い境地にのぼったような気がした。しかしすぐに罪を犯したという思いにおびやかされた（→脅かされた）。今まであたったかだった空気が、ひえびえと感じられた。不義の夫婦は罪を意識した。彼らは、将来についての恐怖、欠乏感、魂の空虚を感じた。やさしい愛、平和、満ち足りた幸福な喜びがとり去られたように思え、その代りに、今まで経験したことのない、何か満たされない思いにおそわれた、彼らは初めて注意を外に向けた。彼らは、それまで身体に衣をまわらないで、天使たちのように光におおわれていたが、彼らをつつんでいたその光は消えていた。彼らは自分たちが、乏しく、裸であることを認めると、その思いからまぬかれるために、身体の衣をもとめることに注意を向けた。どうして衣をつけなくて、神や天使たちの目の前に出ることができようと、彼らは思った。

アダムとエバの罪は、今やその正体をあらわした。彼らが神のあきらかなご命令を犯したその犯罪の性質は、だんだんあきらかになった。アダムは、エバが自分のそばを離れて、蛇に欺かれたおろかさを非難した。彼らは2人とも、自分たちを幸福にするために一切のものをお与えになっている神は、その大きな愛のゆえに彼らの不服従をみのがし、結局刑罰はたいして恐れるほどのものではないだろうとうぬぼれた。

サタンは事がうまくいったのをみて、こおどりして喜んだ。今や彼は女を誘惑して、神に対する不信を抱かせ、神の知恵に疑いを持たせ、神の全知全能の計画を見抜こうとさせたのだ。サタンはまたエバを通して、アダムもたおしたのだ。アダムは、エバに対する愛のゆえに、神のご命令に従わないで彼女と共に**堕落した**のだ。

人類が堕落したというニュースは、全天にひろがり、琴は全部鳴りをひそめ、天使たちは悲しみのあまり、頭の冠を投げすてた。全天は動揺した。天使たちは、人類が、神から与えられていた豊かな恩恵に、亡恩をもってむくいたことを悲しんだ。不義の夫婦をどう処置したらよいかを決定するために会議が開かれた。天使たちは、アダムとエバが生命の木に手をのぼしてその実を食べ、罪の生活をつづけはしないかと恐れた。

神は、不服従の結果を知らせるために、アダムとエバのところへおいでになった。神がおごそかに近づ

いてこられる足音を聞くと、彼らは罪のない聖潔な身であった時分には、喜んでお迎えしたのに、今は神の御目から身をかくそうとした。「主なる神は人に呼びかけて言われた、『あなたはどこにいるのか』。彼は答えた、『園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです』。神は言われた、『あなたが裸であるのを、だれが知らせたのですか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか』。」(創世記3：9～11) 神がこうおたずねになったのは、そのことをご存知でなかったからではなくて、**不義の夫婦に罪を自覚させるためだった**。どうしてお前たちは恥ずかしがり、恐れるようになったのだというのだ。アダムは、罪を認めたが、それは、自分のとんでもない不従順を後悔したためではなく、神を非難するためだった。

「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」。神は女に向かって「あなたは、なんということをしたのです」と仰せになった。エバは答えて、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました」と言った。(創世記3：12、13)

#### のろい 生き残る人びと 第4章 誘惑と墮落

すると神は蛇へびに向かって、「おまえは、この事を、したので、すべての家畜、野のすべての獣のうち、最もものろわれる。おまえは腹で這いあるき、一生、ちりを食べるであろう」と仰せになった。(創世記3：14) 蛇は野の獣の中で高尚なものだったが、サタンの働きの手先になったので、今やそれらの中で最も劣ったものとされ、人に忌みきらわれるものとなった。「更に人に言われた、『あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ、あなたは野の草を食べるであろう。あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、あなたは土から取られたのか。あなたは、ちりだから、ちりに帰る』。」(創世記3：17-19)

アダムとエバが善悪を知るの木の実を食べて、罪を犯したために、神は地をのろいたもうた。そして、「あなたは一生、苦しんで地から食物を取る」と宣告なさった。(創世記3：17) 神はこれまで、彼らに幸福だけを与えて、不幸を与えないでおかれた。今神は、彼らに善悪の木の実を食べさせる、すなわち彼らは一生の間、悪というものを知らなければならないと宣告なさった。

それ以来人類は、**サタンの誘惑にたえず苦しめられることになった**。これまで楽しんできた幸福で愉快的な労働の代りに、いつまでも絶えることのない苦労と心配の生活を、アダムは送らねばならなかった。彼らは失望し、悲しみ、苦しみ、ついには死なねばならないのだ。**土の塵をもって造られた彼らは、ふたたび土の塵ちりに帰らねばならないのだ**。

アダムとエバは、エデンの家郷を失わねばならないことを知らされた。彼らは、サタンの欺瞞に負けて、神は、うそつきだというサタンの言葉を信じた。彼らの犯罪によって、サタンが一層たやすく彼らに近く道が開かれた。彼らがこれまでどおりエデンの園に居ることはよくなかった。なぜなら、罪の状態のまま生命の木の実を食べて、いつまでも罪の生活をつづけるおそれがあったからだ。彼らは幸福なエデンに居る権利を一切失ってしまったことを認めたが、しかし園に残ることを許していただきたいと嘆願した。これからは神に絶対的に服従しますと彼らは約束した。**けがれの無い状態から不義へ転落したことによって得られたものは、力ではなくて、大いなる弱さであることを**彼らは教えられた。けがれの無い、幸福な、聖なる状態にあった時に、きよい心を保つことができなかったのだから、罪を意識するようになった今の状態では、真実と忠誠を保つ力はますますない。彼らは、はげしい苦痛と後悔の念に満たされ、**罪の罰は死だ**ということをし、**今認めた**。

天使たちは、ただちに生命の木にいたる道を守るように、命令をうけた。

アダムとエバが、神に従わないで、神の不興をこうむったのちも生命の木の実を食べて罪の生活をつづけるようにというのが、サタンのたくらんだ計画だった。しかし聖天使たちは、生命の木にいたる道をさえぎるためにつかわされた。天使たちのまわりには、四方にきらめく光があって、それは輝く剣のように見えた。

## 【参考】選択の自由 1

☉神は、人間を律法のもとにおかれたが、これ（→律法）は、人間が存在するためには、不可避の条件であった。人間は、神の統治に従う者であり、律法のない統治はあり得ない。神は、神の律法を犯す力のないものとして人間を造ることもおできになった。また、アダムの手が禁果にふれないように、彼の手をおさえることもおできになった。しかし、それでは、人間は道徳的自由意志の持ち主ではなくて、単なる機械人形になってしまう。**選択の自由**がないと、彼の服従は自発的なものではなくて、強制されたものとなる。品性が啓発されることもあり得なかつたであろう。こういう方法は、神が他の諸世界の住民を取り扱われた計画と相反したものであったことだろう。人間は知的存在者としての価値を失い、神の支配は専制的だというサタンの非難が正当化されたことであろう。

—人類のあけぼの 第2章 天地創造のいわれ—

☉イスラエルの人々は、反逆罪を犯した。しかもそれは、彼らに豊かな恵みを賜わった天の王に対してであった。彼らは、自分から進んで、その王の権威に従うことを誓っていたのであった。天の統治を維持するためには、反逆者に罰を与えなければならない。ここにおいても、なお、神の憐れみがあらわされていたのである。神は、律法を維持されるとともに※1、**選択の自由**、すなわち、**すべての者が悔い改める機会をお与えになった**※2。反逆しつづける者だけが、殺されたのである※3。

—人類のあけぼの 第28章 シナイでの偶像礼拝—

→神は正義を持って律法を守られるが、それと同時に、人々に悔い改めるの機会を与える慈悲深さも持っている。しかし、その機会を拒み、反逆を続けた者には裁きが下される。

※1「神は、律法を維持されるとともに」＝神はご自身の定めた律法（道徳的・宗教的な掟）を変わず守り続ける、つまり、正義を貫かれるということ。

※2「**選択の自由**、すなわち、**すべての者が悔い改める機会をお与えになった**」＝神は人々に自由意志を与え、悔い改めるチャンスを用意されていた。つまり、過ちを犯したとしても、心から悔い改めるならば、赦される機会があったということ。

※3「反逆しつづける者だけが、殺されたのである」＝しかし、与えられた悔い改めるの機会を拒み、なおも神に背き続けた者に対しては、最終的に裁きが下り、命を失うことになったということ。

☉神に対して同じ反抗的不満をくり返している人々が、今日も大勢いる。彼らは、人間から**選択の自由**を奪うことは、知的存在としての権利を取り去って、人間を単なる機械人形にしてしまうのに等しいことを理解していない。意志を強制することは、神のみ旨でない。人間は自由意志を持った道徳的存在として創造された。他の諸世界の住民たちと同じく、人間は、従順か否かの試みを受けなければならない。だが、人間は必然的に悪に負ける立場に置かれているのではない。人間が抵抗できないような誘惑や試練は、1つとして襲ってくることが許されていない。神が十分の備えをしてくださったから、（本来）人間はサタンとの戦いにおいて決して敗北する必要はなかつたのである。

—人類のあけぼの 第29章 律法に対するサタンの敵意—

## 【参考】選択の自由 2

▶ヨシュア記24:15 **もし主に仕えたくないというならば**、川の向こう側にいたあなたたちの先祖が仕えていた神々でも、あるいは今、あなたたちが住んでいる土地のアモリ人の神々でも、**仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい**。ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます。

▶ガラテヤの信徒への手紙5:1 **この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてください**のです。だから、しっかりしなさい。奴隷の轡に二度とつながれてはなりません。

▶ガラテヤの信徒への手紙5:13 **兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出された**のです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。

【参考】 イエスは、わたしに従いなさいと、だれにも強制されない。

「わたしはあわれみの綱、すなわち愛のひもで彼らを導いた」と、イエスは言われる(口語訳、ホセア 11:4)。

各時代の希望 第 52 章 よい羊飼－希望への光 P. 924

ただし、イエスは弟子にしようとする者たちには、条件なく、ご命令 (Follow me) されている。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 19 / 聖句等の総数 33250 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K 出エジプト記	3:8 それゆえ、わたしは降 <sup>くだ</sup> って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地、カナン人、ハト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む所へ彼らを導き上 <sup>のほ</sup> る。	
K 出エジプト記	15:17 あなたは彼らを導き／嗣業の山に植えられる。主よ、それはあなたの住まいとして／自ら造られた所／主よ、御手によって建てられた聖所です。	
K ネヘミヤ記	9:23 その子らの数を天の星のように増やし／行って所有せよと先祖に約束された土地に／彼らを導き入れられた。	
K 詩編	107:7 主はまっすぐな道に彼らを導き／人の住む町に向かわせてくださった。→主は言われる。盛り上げよ、土を盛り上げて道を備えよ。わたしの民の道からつまずきとなる物を除け(イザヤ書 57:14)。	
K イザヤ書	49:10 彼らは飢えることなく、渇くこともない。太陽も熱風も彼らを打つことはない。憐れみ深い方が彼らを導き／湧き出る水のほとりに彼らを伴って行かれる。	
K ホセア書	11:4 わたしは人間の綱、愛のきずなで彼らを導き／彼らの頸から轡を取り去り／身をかがめて食べさせた。 →with cords of a man, with bands of love : KJB／人を結ぶ綱、愛の絆 : 聖書協会共同訳	
S マタイによる福音書	9:9 イエスはそこをたち、通りがかりに、マタイという人が収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。	
S マタイによる福音書	16:24 それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」	
S マタイによる福音書	19:21 イエスは言われた。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」	
S マルコによる福音書	2:14 そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。	
S マルコによる福音書	8:34 それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」	
S マルコによる福音書	10:21 イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」	
S ルカによる福音書	5:27 その後、イエスは出て行って、レビという徴税人が収税所に座っているのを見て、「わたしに従いなさい」と言われた。	
S ルカによる福音書	9:23 それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。 If any man will come after me, let him deny himself, and take up his cross daily, and follow me.	
S ルカによる福音書	9:59 そして別の人が、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。→弟子の覚悟(ルカ 9:57~62)	
S ルカによる福音書	18:22 これを聞いて、イエスは言われた。「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」	
S ヨハネによる福音書	1:43 その翌日、イエスは、ガリラヤへ行くとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。	
S ヨハネによる福音書	21:19 ベトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ベトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。	
S ヨハネによる福音書	21:22 イエスは言われた。「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」	

※KJB: KING JAMES BIBLE 欽定訳